

教育方針	地域社会や家庭と連携をとりながら、知・徳・体の調和のとれた高校教育を推進し、人格の形成と社会の担い手として必要な資質の向上を図る。	重点目標	生徒一人一人を大切にする教育の推進 ～今、長高でしかできないことに全力で取り組む 長高生の育成を目指して～
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
確かな学力	主体的に学習に取り組む姿勢の育成	主体的に学習に取り組む生徒100% (授業評価アンケート(自己評価)) A: 90～100ポイント B: 80～89 C: 60～79 D: 50～59 E: 50ポイント未満	B	授業評価アンケート結果は、第1回が平均87ポイント、第2回が同89ポイントとなり、高評価を維持した。	生徒の実態及び能力の把握に努め、予習復習の効果や授業態度・提出物の適切な評価を説明する。主体的に全力で取り組むことのできるような学習態度を育成していく。
		考査前家庭学習時間1日平均2時間30分以上 A: 2時間30分以上 B: 2時間以上2時間30分未満 C: 1時間30分以上2時間未満 D: 1時間以上1時間30分未満 E: 1時間未満	A	家庭学習時間調査結果は、第1回が1日平均192分(2時間30分以上の生徒59%)、第2回が190分(同65%)、第3回が182分(同67%)、第4回が200分(同67%)で、目標を達成しているが、個人差がある。	学習意欲の高い生徒には、学習時間の増加とともに、学習の質を高める指導に力を入れて、より成果を実感させる。一方、学習意欲の低い生徒には、事前学習会や事後指導、個別指導等を工夫・改善しながら行い、苦手意識の克服と学習意欲の向上に根気強く取り組んでいく。ともに進路実現につながる主体的な学習態度を育成していく。
	授業に満足している生徒100% (授業評価アンケート) A: 90～100ポイント B: 80～89 C: 60～79 D: 50～59 E: 50ポイント未満	A	授業評価アンケート結果は、第1回が平均92ポイント、第2回が同93ポイントとなり、高評価を維持した。	生徒の実態及び能力の把握に努め、校内外の授業研修や教育機器を積極的に効果的に活用しながら、生徒にとって「よく分かる楽しい授業」「進路実現・自己実現につながる授業」が実践できるように、工夫・改善を図っていく。	
	ICT機器を活用し、一人一人を大切にした授業の実践		B	授業評価アンケート結果のうち、ICT機器活用については、第1回が平均87ポイント、第2回が同90ポイントとなり、高評価を維持したが、今後さらなる工夫の余地はある。	一人1台端末等のICT機器を積極的に効果的に活用できるように、工夫・改善を図っていく。ただし、学習の本質を見失わないように心掛ける。
進路実現	進路意識の向上	進路意識が高まった生徒100% (進路ガイダンス後アンケート) A: 90%以上 B: 80～89% C: 60～79% D: 50～59% E: 50%未満	B	2学期の進路ガイダンスにおいて、「その仕事内容について理解できたか」の問いに、87.1%の生徒がよくできたと回答し、学校評価アンケートの「自分の進路に対して、この1年でよく考えるようになったか」について、全学年平均が4.5であった。	今年は生徒の進路希望に応じて、14の講座でガイダンスを実施した。今後も生徒にとって効果的な進路ガイダンスを計画し、意識啓発を図りたい。
	進路目標の実現	進学決定率100%、就職内定率100% A: 90%以上 B: 80～89% C: 60～79% D: 50～59% E: 50%未満	B	12月末現在で、進学決定率83.3%、就職内定率100%である。	補習やキャリアデザインの時間を活用し、早期対応で生徒の希望実現を目指したい。
		希望する四年制大学への進学達成率100% A: 90%以上 B: 80～89% C: 60～79% D: 50～59% E: 50%未満	A	12月末現在で、四年制大学希望者9名中9名が希望の大学に合格した。高知工科大学1名、鳥取環境大学1名、松山大学2名、慶應大学1名など難易度の高い大学も含め、手厚い指導で合格へ導いた。	来年度は大学進学希望者が急増するため、指導体制や指導方法について、見直したいと考えている。
環安健全・健全な教育	交通安全意識や交通マナーの向上	交通事故0件 A: 0件 B: 1 C: 1件 D: 2件 E: 3件以上	A	R6 1月現在、事故の発生はない。	本校生徒の自転車を利用しての通学は少数ではあるが、徒歩を利用しての通学者を含めて今後も交通安全意識の高いレベルでの維持を図っていきたい。
		交通マナー(列車通学・自転車通学など)を遵守する生徒100% (学校評価アンケート) A: 4.5～5.0 B: 4.0～4.4 C: 3.0～3.9 D: 2.0～2.9 E: 2.0未満	A	生徒の自己評価値(4.8)であった。	生徒の自己評価値は高いが現状に甘んじることなく対応していきたい。歩行中のスマートフォン操作やイヤホンの使用等危険性の高い行為については注意喚起を継続して行っていきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
安全・安心な教育環境 健やかな体	特別活動の充実	学校行事の満足度100% (学校評価アンケート) A:4.5~5.0 B:4.0~4.4 C:3.0~3.9 D:2.0~2.9 E:2.0未満	A	生徒の自己評価値(4.6)であった。	生徒の満足度は高いが、内容や効率性、実施の意義を含めて改善を図ってきたい。
		県大会以上出場部80%以上 A:80%以上 B:70~79% C:60~69% D:50~59% E:50%未満	B	体育部(4部)の南予予選を通過しての県大会出場部は(3部)であった。その中でも陸上部は、県新人大会を優勝(女子ハンマー投)し四国大会でも2位となった。男子テニス部も2名の在籍ではあるが徐々に成果を出している。	所属生徒は年々減少しているがよく健闘をしている。個人種目の多い種目特性を生かし、近隣他校などとも協力し、今後も個に寄り添い対応してきたい。
	生活習慣の確立と規範意識の向上	欠席〇の生徒数70%以上 A:70%以上 B:60~69% C:40~59% D:30~39% E:30%未満	E	2学期末時点で皆勤者は26人(26/130人)皆勤率は、20%であった。	昨年度(33%)より向上さらに数字を落とす結果となった。不登校傾向の生徒もいたり、個々に通学に対する障壁は異なるが、遅刻・欠席数を含め減少させ皆勤者を増加できるように個々に寄り添い励まし援助してきたい。
延べ遅刻者数月平均20以下 A:20人以下 B:21~30人 C:31~40人 D: — E:40人以上		B	月平均23.4人/月(12月末時点)1年生を中心に遅刻者が多い状況を大きく改善できなかったが、昨年度よりは向上傾向と言える。	単身生活者(36人)を中心に1年生に遅刻が多い。しかし、遅れる生徒は特定され個々に抱えている状況も異なる。不規則な生活にならないように学校生活は元より下校後の生活にも注意喚起を継続してきたい。	
		高校生らしい身だしなみや元気な挨拶ができる生徒100% (身だしなみ指導合格率) A:80%以上 B:60~79% C:50~59% D:30~49% E:30%未満	B	R6 1月実施時点での合格率は男子(69.6%)、女子(77.1%)全体での平均合格率(73.4%)であった。	「身だしなみの校則」について今年度大きく変更を行った。生徒にとって学校生活に集中できる内容を目指し、整備を進め始めた。適宜内容については改善を図る予定である。そのことも影響してか、合格率は向上しているが、安易な理由での不備がまだ目立つ。指導日だけでなく、日常から身だしなみを意識した登校を心がけさせたい。
健全育成	読書の充実	生徒一人あたりの図書貸出冊数8冊以上 A:8冊以上 B:6~7冊 C:4~5冊 D:2~3冊 E:1冊以下	A	生徒一人当たりの図書貸出冊数は、12月末までで10.4冊であった。各学年とも一定数の貸し出しが見られた。	貸出冊数の多い生徒の偏りと貸出本のジャンルの偏りが見られる。生徒の希望図書その他、進学に向けて必要な本の購入を進め、様々なジャンルの本を利用してもらえるようにしていきたい。
	いじめを許さない望ましい集団づくり	学校が楽しいと感じている生徒100% (学校評価アンケート) A:4.5~5.0 B:4.0~4.4 C:3.0~3.9 D:2.0~2.9 E:2.0未満	B	学校評価アンケートは評定が4.2であった。昨年度の4.3から微減している。また、毎月実施している健康観察の「学校生活は楽しいですか」の質問に対して、全校生徒の95%以上が、「楽しい」「やや楽しい」と回答している。学校生活を前向きに送れている生徒が多い。	担任や学年主任を中心に、面談や「長高いじめに関するアンケート」等を通じて、生徒の状況の把握を一層進める。それが些細な内容であっても生徒に寄り添い、話を聞く姿勢を生徒に見せていく。 また、スクールライフアドバイザーや教育相談が利用できることを呼び掛けるようにする。
	地域貢献につながる活動の充実	ボランティア活動への積極的な参加	地域におけるボランティア活動参加80%以上 (学校評価アンケート) A:80%以上 B:70~79% C:60~69% D:50~59% E:50%未満	B	学校評価アンケートでは、78%の生徒が、ボランティア活動に対して前向きな回答をしている。ただ、5月から12月までに15件のボランティア活動及び奉仕活動に延べ192名(昨年度は77名)が参加した。(回収率67.7%、回答者87名)
特色ある学校づくり	水族館活動の充実	来館者の満足度90%以上 A:90%以上 B:70~89% C:50~69% D:30~49% E:30%未満	A	一般公開を完全予約制として人数制限をするなど、感染症対策をしながら、毎月(11月は暴風警報で中止)実施した。来館者満足度の平均値が94.3で、これまでで最高評価をいただいた。	部員数の増加と施設の老朽化などに対応するため、高校に隣接する長浜保健センターに水族館の移転を予定している。移転に伴い新たな問題の発生が予想されるが、部員とともに対処してきたい。
	地域の活性化や学校の魅力化に向けた活動の推進	地域の活性化に向けた取組参加者延べ人数	A	地域の清掃活動や祭り、子どものイベントへの参加等に延べ192名(昨年度99人名)が参加。1年生51名は総合的な探究の時間(キャリアデザイン)において「地域探究プログラム」に参加し、地域の課題解決に向けた取組を積極的に行った。	これまで以上に充実した内容とするために地域の課題発見、解決のために、継続した取組を行っていく。地域の活性化につながるボランティア活動については在学中に全ての生徒が最低一度は主体的に参加できるよう意識啓発を行っていく。
		伊予長浜豊年踊りの継承	A	部員は兼部の生徒のみであるが、積極的に練習に取り組んだ。長高フェスティバルで披露することができた。	部員の確保に努めていきたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
特色ある学校づくり	情報の積極的な公開	ホームページアクセス数1日平均350件以上 A: 350以上 B: 300以上 C: 250以上 D: 200以上 E: 200未満	D	8月25日(新HPに移行後)から12月21日現在までのアクセス数1日平均は、247であった。Instagramと併用して情報発信をしているので、HPのアクセス数が伸びなくなっている。	HPとInstagram双方の利点を生かした情報発信の充実に努めたい。
	PTA活動の活性化	保護者のPTA総会参加率60%以上 A: 60%以上 B: 50~59% C: 40~49% D: 30~39% E: 30%未満	B	今年度のPTA総会参加率は58.6%であった。県外生の生徒の割合が25%と高くなっており、今年度から、リモートでの参加を呼び掛けたところ、10家庭の参加を得、昨年度の43.8%を大きく上ることができた。	今後もリモートの参加を呼び掛けるなど、多くの保護者が参加できるように工夫していきたい。
業務の改善		ICT機器等の活用や業務内容見直しにより、3項目以上の業務軽減や削減を図る A: 3項目以上 B: 2項目 C: 1項目 D: できなかった E: 増加した	A	一人1台端末などICTを有効に活用し業務効率化に努めた。特に、長高いじめに関するアンケートをはじめ各種調査をteamsで実施し集計時間の短縮を行った。また、保護者懇談や家庭訪問を一部オンラインで実施したり、職員会議開催日は短縮授業とし定時終了とした。さらに就職及び入学試験面接の練習では、3年担任だけではなく、管理職を含めた他の教員も実施し担任の負担を軽減した。1年を通じて管理職が率先してコミュニケーションを取りやすい雰囲気作りに努め、風通しの良い職場づくりを行った。	引き続き、ICT機器の有効な活用について研修を重ねる。また、他校や他県の取組事例も参考にし、各課、各学年、各教科において課題を洗い出し、今後の学校行事や業務内容について一層の軽減や削減に取り組む。
		時間外勤務時間を3%以上削減する A: 3%以上 B: 2~3%未満 C: 2%未満 D: 変わらなかった E: 増加した	E	4~12月平均で前年度比4.7%増加した。1クラス分生徒数が増加したことに伴い、進学希望者や単身生活生が増加し個別の対応が必要となるなど時間外業務が増えたものと考えられる。	ICT機器等の効果的な活用の研究や各課、各学年、各教科において更なる業務・行事の精選を行う。また、テレワークの利用推進や教職員一人一人の業務量及び役割分担の見直しを行い、組織改編に取り組む。